



面倒だから、しよう

寒い日が続いていますが、先週の金曜日の夕方、附属山口小にも初雪が見られました。令和3年の学習も今日で終了となりました。次に子どもたちと出会うのは、令和4年となります。さて、令和3年の締めくくりの全校朝会で、校長先生が子どもたちに次のような話をしました。

2021年、令和3年も、あと10日足らずとなりました。やり残していることはありませんか？しなければいけないことは、できていますか？面倒だから、やめたってことはありませんでしたか。

さて、「面倒なことは、できるだけ避けたい」「手間は極力省きたい」「楽ができるなら、それに越したことはない」と思うのは、多くの人の思いでしょう。わたくしもその一人です。しかし、そうしてばかりいると、努力することや耐えること、踏ん張ることが難しくなり、いつしか向上心も失ってしまうのではないのでしょうか。

「面倒だから、〇〇〇」皆さんは、この「面倒だから、」に続く言葉として、どんな言葉を想像しますか？

ノートルダム清心女子大学に勤めておられた渡辺和子さんは、『面倒だから、しよう』という本を書かれています。その本の中で、大学の先生をしておられたときに出会ったある学生の話を紹介しておられます。その一節を紹介させていただきます。

テストの監督をしていた私は、一人の4年生が席を立ち上がったから、また何かを思い直して座る姿に気付きました。90分テストでしたが、60分経ったら、書き終えた人は退席してよいことになっていたのです。

座り直したこの学生は、やおらティッシュを取り出すと、自分の机の上の消しゴムのカスを集めてティッシュに収め、再び立ち上がって目礼をしてから教室を出て行きました。

私は教壇を降り、その人の答案に書かれた名前を確かめたように覚えています。ちょうどその頃（今もそうですが）、教えていた学生たちと、「面倒だから、しよう」という、ちょっとおかしな日本語を合言葉にしており、この4年生は、それを実行してくれたのでした。

「面倒だから、しよう」って、何か変だなと思いませんか？普通は「面倒だから、よそう（やめよう）」でしょうね。消しゴムのカスをそのままにしておくのも、片付けて席を立つのも、本人の自由です。しかし、わたくしは、皆さんによりよい選択ができる人に育ってほしいと思っています。安易に流されやすい自分と絶えず闘い、面倒でもする人、倒れてもまた起き上がって生きていく人を育てたいと思っています。著者の渡辺和子さんは、学生たちに『自分の怠け心と闘った時に、初めて、本当の美しさ、自分らしさが生まれてくるのだと思う』と言っています。「ゴミは拾うのは面倒だ。だから、拾おう」…そんな姿に、グラウンドに落ちていたゴミを拾う大リーグの大谷選手の美しさもあるのでしょうか。面倒くさがり屋のわたくしが、自分自身にも言い聞かせて、わたくしも美しく生きていきたいと思います。来年も頑張りましょう！皆さん、よいお年をお迎えください。

1月の主な行事予定

- 1日(土) 元旦 8日(土) 附属山口小学校入学選考検査 10日(月) 成人の日
 11日(火) 全校朝会⑦, 委員会⑨, SC来校 13日(木) 委員会オリエンテーション 17日(月) 集金日
 18日(火) 代表委員会③, SC来校 20日(木) フレンドリータイム 21日(金) 研究発表会前日準備
 22日(土) 価値の創出と受容・評価をコアとした教科融合カリキュラムに関する研究発表会(児童は週休日)
 24日(月) 休業日 25日(火) 身体測定(1年, 2年) 26日(水) 身体測定(3年, 4-2, 5-1)
 27日(木) 身体測定(4-1, 5-2, 6年) 28日(金) 入学児童保護者説明会